

皆で話そう

葬儀の風習

教学研修会

和歌山宗務支所自布団
平成21年1月22日開催

研修概要

- 葬儀無用論が明治40年ごろから叫ばれ、形骸化・ビジネス化するなかで、葬儀本来の意義を考える必要がある
- グローバル化・情報化社会になり、地域によって異なる風習・習俗を知り、差異の少ない姿を 正しく後生に伝えることも、肝要
- 御地の風習を**固執**しないで、情報交換の場になればと願っております

葬儀の歴史

- 4万年以上前のネアンデルタール人の遺跡から共同墓地が発見され、人骨の周辺からは花粉もみつかる
- フランスの歴史学者アリエスは、「人間は死者を埋葬し、弔う唯一の動物」
- 心は近親者の死によって発達したとされるある僧は、葬儀をもって世の多くの偏見者に対し“人の世の無常を教える機会であり、仏道に向かわせるこの上もない大切な場である ”

葬儀の歴史

- 縄文時代には屈葬が多く見られる
- 弥生時代には共同墓地が集落の近くにつくられる、農耕が盛んになるにつれ、山に葬られるようになる
- 平安時代は、「臨終」が重視されていた僧侶は、貴人の病床の時点では快癒を祈って加持祈禱を営み、臨終の正念が極楽往生の肝要な条件とされ、最後まで正気を保ち臨終の苦痛を取り除くため読誦した
- 臨終の判断は僧侶が行い、陰陽師と共に入棺の日時や葬場・荼毘所等の葬送を決定した

葬儀の歴史

- 聖武天皇(701~756)をはじめ貴族も含めて、この時代から臨終の病床で出家・剃髪受戒が行われるようになる
- 釈尊は、戒律のなかで、出世者即ち僧侶たる者は在家の人々の葬儀に関わってはならないと定めている
僧侶は在家の人々の葬儀をすることは許されない (真言宗実践双書)
- 葬儀を行う前に、在家の人々は先ず出家をさせる

葬儀の歴史

- 比叡山横川の恵心院源信が寛和元年(985年)に往生要集を説き、極楽往生が唱えられる
- 鎌倉時代以降、葬式仏教化する
- 天台宗は、法華三昧と常行三昧を中心にした、懺悔滅罪を主とする法華懺法で、貴族の葬祭を行う
- 禅宗は、「禅苑清規(ぜんえんしんぎ)1103年」に説く尊宿(仏法の真理を体得した僧)の葬儀
亡僧(修行の途中で亡くなった僧)の葬儀を行う、後に武士の葬祭を行うようになる

葬儀の歴史

- 浄土諸宗は、二十五三昧講を源流とし浄土信仰を中心に庶民の葬祭を行う
- 天台宗は貴族、禅宗は武士から庶民、浄土諸宗は庶民の葬祭を行うようになり、真言宗も遅れて葬儀を行うようになった

真言宗の葬儀

- 真言宗では覚鑿の「引導大事」が最初
- 高弁(明恵)は、「光明真言土砂勸進記」^{1228年}
「光明真言の加持力により無間地獄などにおちたれども、このすなごたちまちに真言のひかりをはなちて、罪苦のところにおよぶに、その罪おのずからきえて、極楽世界へ往生するなり」と説き
- 光明真言を中心に葬祭を行うようになる
- 引導作法の最も重要なことは、出家した亡者に灌頂を行い、金胎両部大日如来の印明を授けること

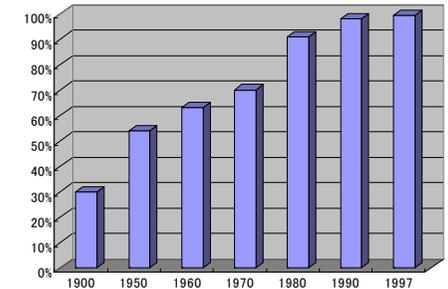
火葬の歴史

- 続日本紀に、文武天皇4年(700年)3月10日道昭の火葬が始原とされる
(南都元興寺の僧、653年に玄奘から法相を学ぶ)
- 万葉集の中の柿本人麻呂が、妻の死を悲しんでつくった歌に火葬の意がみられる
- 703年持統天皇・707年文武天皇・721年元明天皇・748年聖武天皇・・・等は火葬される
- 持統天皇は火葬で、天武天皇は埋葬

火葬の歴史

■ 日本の火葬状況

1900年頃は	30 %
1950年には	54 %
1960年には	63.1%
1970年には	70.2%
1980年には	91.1%
1990年には	98.1%
1997年には	99 %



■ 年間火葬人数

2004年	100万人	死者101万4951人
2035年	176万人	(厚生労働省調)

葬儀無用論

- 葬儀は何のために行われるのか？
仏教学に専念し修行に努めるよりも、収入面の魅力に振り回され、死者に引導をわたす資格など無い僧侶に、死者がとこしえに安らかな眠りにつけるとは考えられない、形骸化している
- 何をしているかわからない
- 時間がかかりすぎる
- 金がかかりすぎる
祭壇は一夜飾り
見栄と対面を重視する

葬儀の現状

- 東京では、3割の人は病院から直接火葬場へ遺体を運び焼く「直葬」が行われている。また、骨も拾わない。
- 昭和初期には、通夜は本来は喪屋生活の遺風であって親戚中心の近親者のみで行い、遺族以外のものはなるべく辞退するようにとのおふれがだされた
- 香奠の意義がわからなくなっている

散骨を考える

- 葬送の自由をすすめる会
安田睦彦師が中心となり1991年に設立
2002年、特定非営利活動法人(NPO)の資格を取得
目的に賛同する市民が集まって、葬送の自由という基本的理念の確認と、自然葬への社会的合意の拡大を目指して、啓発活動を続ける会で、現在1万人の会員が居る
- 墓地・埋葬等に関する法律(昭和23年5月31日施行)
第1条 この法律は、墓地、納骨堂又は火葬場の管理及び埋葬等が、国民の宗教的感情に適合し、且つ公衆衛生その他公共の福祉の見地から、支障なく行われることを目的とする。
第2条 この法律で「埋葬」とは、死体(妊娠四箇月以上の死胎を含む 以下同じ)を土中に葬ることをいう
第4条 埋葬又は焼骨の埋蔵は、墓地以外の区域に、これを行ってはならない

葬儀と告別式

- 葬儀と告別式
去る9日永眠せる現在の文豪夏目漱石の葬儀は12日午前10時20分より青山斎場に於いて営まれたり、
是より前 午前6時30分牛込区早稲田南町の夏目漱石邸の書斎に北向の枕して冷たく横たわる漱石の遺骸に対し婦人遺子始め親戚友人一同永久の訣別をなし 小石川徳雪寺より来たれる僧侶の読経もいと哀しく一同の焼香を終わって午前8時半漸く柩車は偉いなる故人の霊を載せて優々青山に向ひぬ(読売新聞大正5年12月13日)

大般涅槃経

- 葬儀の風習の始原は、釈尊の入滅を叙述し、その意義を説く経典『大般涅槃経』
阿含経をはじめとする部派仏教経典類から大乘経典まで数種ある
- 釈尊の死
パーヴァーの地で、鍛冶工の純陀の供養を受けた釈尊は、その直後激しい腹痛を訴える
純陀が差し出した料理は、Suukala-maddava(スーカラ・マッダヴァ)スウカラは『野豚』、マッダヴァとは『柔らかい』と訳される これがどんな料理だったのかについては諸説あるが、キノコ(梅檀樹耳)を使った料理とも、豚肉を使った料理とも言われる
北伝及び漢訳経典では、豚が好む種のキノコを使った料理が有力

大般涅槃経

- 高齢にして激しい食中毒の様な症状を現した釈尊は、遂にカクッター川のほとりで倒れ伏し、休まれる
この地で最後の沐浴をされる
- クシガナラ(クシーナガル)の入口にバツダイ川が流れていて、川の東側の沙羅林に頭を北に向けて休まれ「涅槃」にいられる

葬儀の風習を考察していきたいと思えます

涅槃の地



涅槃の地



病院で臨終を迎える

- 神社の前や、馬場は通らない
通る時は、幕をひく(白・黒?)
- 遺体を載せる車は
寝台車でなくて良い
自家用車(自分の車)に乗せ
搬送してもよい。
但し、タクシー等の公共の
乗り物には乗せることは
できません



喪家での準備

- 掃除をする
昔は自治会の方が掃除してくれた障子張りもした
- 神封じ
柵を下げる
注連縄を下げる
半紙で覆う
(×を付けるか?)



喪家での準備

- 釜戸を閉じる
- 簀子を閉める
猫等の獣が床下に入らない様にする為



喪家での準備

- 床を伏せる?
- 床の掛け軸を掛け替える
四国88ヶ所の軸
西国33ヶ所の軸
弘法大師等
- 仏壇を閉じる
何時まで閉じるのか?



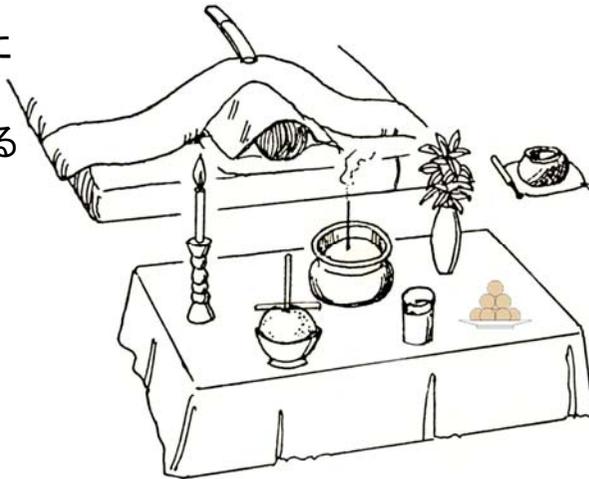
自宅に連れて帰る

- 玄関から遺体を入れる
- 縁側から遺体を入れる



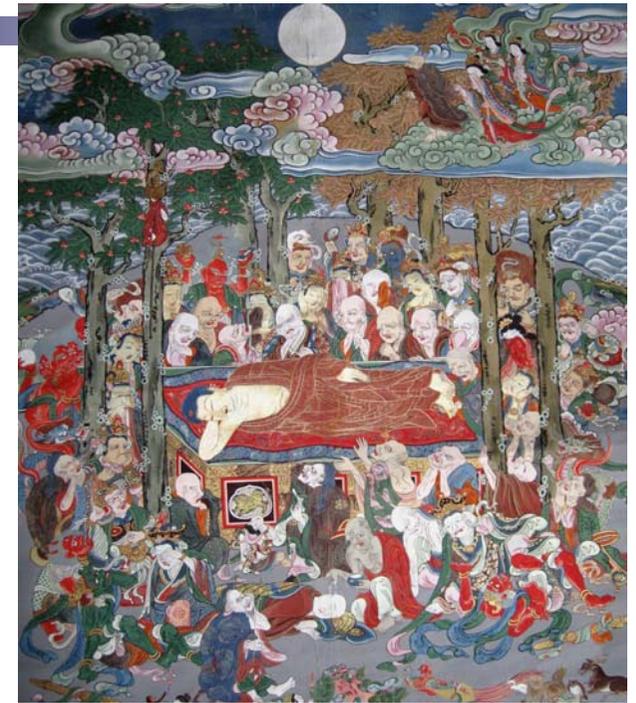
枕直し

- 床の間・居間に寝かせる
- 頭を北に向ける



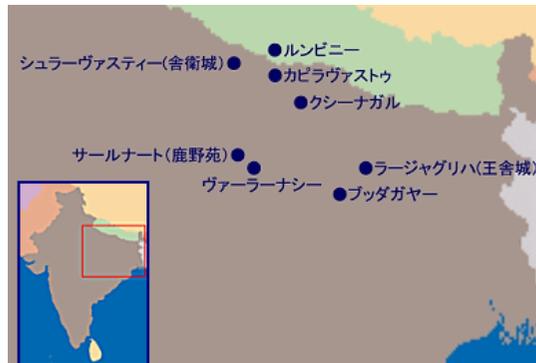
北枕

- 頭北面西右脇臥
- インドでは北を上位
- 儒教では王者南面・臣下北面
- 東貪、西福南短、北長



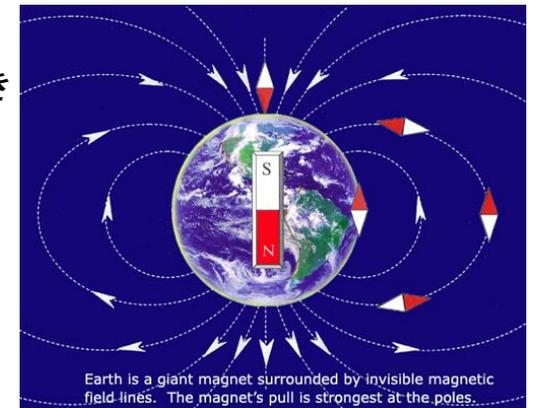
北枕

- 80才の釈尊は、ラージャグリハ(王舎城)の靈鷲山から、生まれ故郷のカピラヴァストゥ(カピラ城)に向かって旅を決意され、クシナガラまで来たところで動けなくなられた。
- カピラ城はクシナガラの北に位置し北を向いて歩いて居られたから



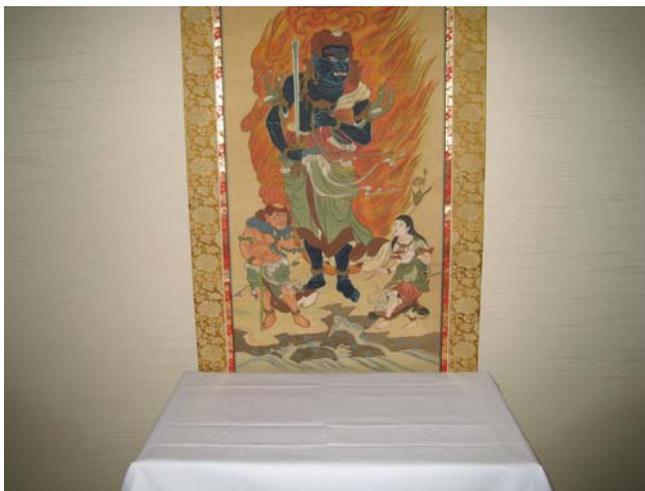
北枕

- 北極にある磁極を北磁点、南極にあるのを南磁点といい、北磁点はS極、南磁点はN極
- 地球が自転することで、中心部にある液体状の金属が動き動きによって電気が発生しその電気によって地球に磁場が生まれる



枕飾り

- 北側に不動明王の掛け軸を祭る
- テーブルを用意して白布を掛ける



枕飾り

- 一本花
- 一本線香
- ローソク
- 枕飯 (一膳飯)
- 枕団子
- 水



枕飯

- 東方の意楽美音浄土の虚空等如来が弟子に、香飯を届けさせた。
- 黄泉戸喫



枕飯

- 一合は、枡で計らない
女性が両手で掬う量が凡そ一合



男性



女性

飯の炊き方

- 空の釜に、米を入れてから、水を濯ぎとぐ
普段、飯を炊くときは
先に、釜に水を入れてから
米を入れて洗う
- 米は綺麗に洗わない
- 芯を残して焚く
米には魔力が宿る
- 家の内では炊かない



枕飯

- 箸を立てる

割り箸



利休箸



塗り箸



白木箸



一本花

- 一本花
密
白菊
- 大迦葉が
遠方で一
本の花を
持った人
に出会い、
釈尊の入
滅を知ら
される



密

- 密は真を供えない
下に垂れた枝
- 花器には水は入れ
ない
- 必ず、1本のみ供え
る



ビシャコ

- ビシャコは、姫榊とも非榊とも言われ、榊の類にあたります。
- 葬儀や水を手向ける時には使用しません。



枕 幡

- 一本花に枕幡を供える



枕団子

- 団子の数
6個
7個
9個
11個
13個



お水を供える

- 釈尊は口が乾き、阿難に三度所望されたが、川が濁っていて飲むことができず
- ヒマラヤの鬼神が、甘露水を捧げた



逆さ屏風

- 屏風は逆さまに置く
- 動物が近寄らない様にする為
- 現実世界から遊離させるため



守り刀

- 守り刀の代わりに安全カミソリや女性の場合はにぎりはさみを置く



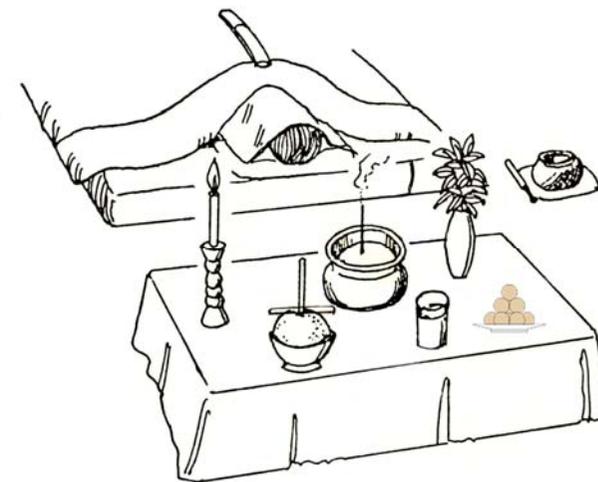
四華

- 枕飾りに四華を置く?
- 色は、白・金・銀



枕経

- 何分経を唱えるか
- 何を唱えるか



雑学

信しん
士しじ

先せん師じ
尊そん靈りよう

ご協力ありがとうございました

学びネットを開設しました
Waka.net@gmail.com